



## 平成27年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年11月16日

上場会社名 株式会社小僧寿し 上場取引所 東  
 コード番号 9973 URL <http://www.kozosushi.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 磯村 明彦  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務経理部長 (氏名) 片野 裕之 TEL 03-6226-4400  
 四半期報告書提出予定日 平成27年11月16日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年12月期第3四半期の連結業績（平成27年1月1日～平成27年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第3四半期	4,562	△50.4	76	—	44	—	△10	—
26年12月期第3四半期	9,205	△22.1	△530	—	△571	—	△741	—

(注) 包括利益 27年12月期第3四半期 △10百万円 (—%) 26年12月期第3四半期 △741百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期第3四半期	△0.34	—
26年12月期第3四半期	△31.21	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年12月期第3四半期	2,494	960	38.5	32.29
26年12月期	3,740	970	25.9	32.58

(参考) 自己資本 27年12月期第3四半期 959百万円 26年12月期 969百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年12月期	—	0.00	—	—	—
27年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

### 3. 平成27年12月期の連結業績予想（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,041	△33.7	256	—	220	—	191	—	7.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年12月期3Q	29,754,342株	26年12月期	29,754,342株
② 期末自己株式数	27年12月期3Q	6,480株	26年12月期	6,329株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年12月期3Q	29,747,945株	26年12月期3Q	23,748,056株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、現時点における経営環境において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については2ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成27年1月1日～平成27年9月30日）におけるわが国経済は、消費税増税後の落ち込みから、株高・原油安による消費者マインドの改善を背景に持ち直しの動きを見せており、企業収益につきましても円高是正を発端とした回復が続いております。

しかしながら、外食産業におきましては、販売競争が激化する中で、原材料価格の高騰もあり、依然として厳しい経営状況が続いております。

このような状況の中で、当社グループは当期、「赤字体質からの脱却、黒字転換の実現」を事業方針の主題として掲げており、当社の主軸事業とする持ち帰り寿し事業の再建を目的とした不採算店舗の閉店を進め、当第3四半期連結累計期間において、不採算店舗の閉店は完了しております。

現段階においては、既存店の収益構造改善のため、サービスの改善を進め、小僧寿しの味の基盤である舍利の品質向上や、季節の食材を織り交ぜたイベント商品の充実などを図り、お客様に感動を与える事が出来るサービスクオリティの実現に向け、改善を進めております。また、残る既存店舗の店舗採算性の改善に努めており、店舗コスト構造の見直しによるコストダウン、人件費のコストダウンを見越した商品の集中製造化など、収益性が最大化される店舗の最適パッケージ化を進めております。

また一方で、持ち帰り寿し事業とは異なる、収益の柱となる事業を創出するため、ラーメン事業の展開を進めており、同事業においても、顧客数の増加を図るための品質改善、新商品の展開、店舗採算性の改善を進めております。

以上の結果、売上高に関しましては、事業方針に掲げる不採算店舗の撤退を実施した事に起因し、45億62百万円（前年同期比50.4%減）となりました。

しかし一方で、店舗収益構造の改善及び不採算店舗の閉鎖等、事業方針の骨子とした施策を実行した事、及び各種コスト削減の施策を実行した事などにより、営業利益は76百万円（前年同期は5億30百万円の営業損失）となり、経常利益は44百万円（前年同期は5億71百万円の経常損失）となりました。

また、四半期純損失は、第1四半期連結会計期間における、閉鎖店舗に係る退職金支払い等の影響により、10百万円（前年同期は7億41百万円の四半期純損失）となりました。

各セグメントの業績は以下のとおりであります。

#### ① 持ち帰り寿し事業等

持ち帰り寿し事業等は、持ち帰り寿し事業及びラーメン事業より構成されております。同事業においては、顧客への「お寿司」の提供方法が多様化される現代において、企業間競争の激化はなお加速しており、その影響下のもと、1店舗あたりの商圏は狭小しております。かかる状況の中で、事業方針の主題である「赤字体質からの脱却、黒字転換の実現」を実現するため、恒常的に不採算となっている店舗かつ収益性が改善されない見通しである店舗について撤退を進め、黒字店舗のみを運営する体制へと刷新し、収益体質の改善を図っております。当第3四半期連結累計期間において、前年度末より進めていた不採算店舗の閉店実施については全て終了し、当第3四半期連結会計期間においては、既存の店舗の収益性を最大化させるための改善に着手しております。

また、持ち帰り寿し事業とは異なる収益の柱となる事業を創出するため、ラーメン事業への進出を進めており、現在10店舗を展開しております。

以上の結果、不採算店舗の撤退による店舗数の減少の影響もあり、持ち帰り寿し事業等の売上高は34億93百万円（前年同期比49.8%減）となっております。

#### ② 寿しFC事業

寿しFC事業におきましては、小僧寿しフランチャイズチェーン加盟者への経営指導と食材の提供を主たる事業としております。当第3四半期連結累計期間の寿しFC事業の売上高は、加盟店の減少の影響もあり、10億68百万円（前年同期比52.4%減）となっております。

### (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は24億94百万円となり、前連結会計年度末に比べ12億45百万円の減少となりました。主な要因としては、現金及び預金が2億52百万円減少、受取手形及び売掛金が2億44百万円減少、商品が2億39百万円減少したこと等によるものです。

負債合計は15億33百万円となり、前連結会計年度末に比べ12億35百万円の減少となりました。主な要因としては、支払手形及び買掛金が3億37百万円減少、未払金が2億93百万円減少、長期借入金が1億円減少したこと等によるものです。

株主資本は、当第3四半期連結累計期間の業績を反映し、10百万円減少し9億59百万円となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年12月期の業績予想は、平成27年2月16日付け「平成26年12月期決算短信[日本基準]（連結）」から変更はございません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループでは、第43期（平成22年12月期）以降、継続して営業損失を計上しており、また、営業キャッシュ・フローもマイナスとなっております。これにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループでは、当該状況を改善するためには、主軸である持ち帰り寿し事業の立て直しが急務であると考えており、以下の通り既存店舗の売上施策とコスト削減を進め、当社グループの収益構造を抜本的に改革していくとともに、財務基盤の強化を図ってまいります。

### ①商品展開

お客様により美味しく、満足感のある商品を提供するため、購買、物流、商品企画、店舗構造の全体最適を実現するための体制を構築いたします。小僧寿しの味の基盤である舎利の品質向上や、季節の食材を織り交ぜた各月のイベント商品の充実などを図り、お客様のニーズに叶う商品を提供してまいります。

### ②新規事業の開発、新規市場への進出

時代と共に移り変わる食のニーズに対応するため、従来のに捉われない事業ドメインの構築を進めます。隆盛を極めた過去の成功体験に依存せず、現代のニーズに合致した食の提供を可能とする企業へ転換し、市場動向に合わせ、新規事業の展開を進めてまいります。

### ③運営店舗の最適化

現在の経営状況、収益構造に鑑み、赤字の源泉となっている不採算店舗の閉店を進める一方で、新業態としてのラーメン店への業態転換を進めることで、店舗採算性の改善に努めております。また、持ち帰り寿し店舗に関しては、品質改善による商品の訴求力向上、物流コスト構造の見直しによるコストダウン、人件費のコストダウンを見越した商品の集中製造化など、当社が並行展開している施策を元に、収益性が最大化される店舗の最適パッケージ化を進めており、経営状況に合わせ、適宜調整を図りながら同パッケージモデルに準じ、運営する店舗の最適化を進めてまいります。

### ④コスト削減

上記の積極的戦略を推進する一方で、コストの削減もこれまで以上に進めてまいります。物流システムにおける受注体制、物流オペレーションの見直し、配送センターの一元管理化に伴う在庫削減を実施し、コストダウンを図ります。

また、「小さな本社」を目指し、本社機能の集約化を進めてまいります。

当社グループでは、以上の対応策を実行するとともに、各種コスト削減の施策や、新規事業の創出と展開を進めます。

なお、文中における将来に関する事項は、当第3四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,257,113	1,004,693
受取手形及び売掛金	439,852	195,420
商品	303,661	63,718
貯蔵品	20,759	17,760
未収入金	281,602	—
その他	185,385	322,440
貸倒引当金	△158,091	△129,493
流動資産合計	2,330,284	1,474,540
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	183,544	131,381
無形固定資産	—	24,064
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	7,232	7,232
敷金及び保証金	1,071,123	818,684
破産債権等に準ずる債権	430,664	294,514
その他	41,452	34,275
貸倒引当金	△324,192	△290,174
投資その他の資産合計	1,226,280	864,531
固定資産合計	1,409,824	1,019,976
資産合計	3,740,109	2,494,517

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	506,258	168,838
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	100,000	100,000
未払金	670,839	377,310
未払法人税等	21,479	15,056
賞与引当金	2,300	2,989
資産除去債務	145,277	11,950
店舗等閉鎖損失引当金	79,251	—
その他	199,215	110,246
流動負債合計	1,824,621	886,391
固定負債		
長期借入金	200,000	100,000
資産除去債務	259,044	248,028
長期未払金	264,984	189,960
訴訟損失引当金	22,757	—
その他	197,992	109,529
固定負債合計	944,778	647,518
負債合計	2,769,399	1,533,910
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,769,338	2,769,338
資本剰余金	1,521,820	1,521,820
利益剰余金	△3,314,519	△3,324,605
自己株式	△7,393	△7,409
株主資本合計	969,246	959,144
新株予約権	1,462	1,462
純資産合計	970,709	960,607
負債純資産合計	3,740,109	2,494,517

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
売上高	9,205,387	4,562,299
売上原価	4,784,342	2,110,083
売上総利益	4,421,045	2,452,216
販売費及び一般管理費	4,951,127	2,375,501
営業利益又は営業損失(△)	△530,081	76,715
営業外収益		
受取利息	814	879
受取配当金	19,115	—
受取賃貸料	147,758	101,925
その他	33,358	13,782
営業外収益合計	201,046	116,587
営業外費用		
支払利息	6,421	16,541
貸貸資産関連費用	133,913	95,564
株式交付費	53,852	—
その他	48,191	36,771
営業外費用合計	242,379	148,878
経常利益又は経常損失(△)	△571,415	44,425
特別利益		
固定資産売却益	462	17,896
新株予約権戻入益	4,114	—
その他	784	9,667
特別利益合計	5,361	27,563
特別損失		
固定資産除却損	22,012	3,603
減損損失	3,074	—
特別退職金	32,387	47,261
店舗閉鎖損失	—	16,283
貸倒引当金繰入額	80,364	—
解約違約金	5,810	—
その他	23,044	7,051
特別損失合計	166,692	74,200
税金等調整前四半期純損失(△)	△732,746	△2,211
法人税、住民税及び事業税	8,402	7,873
法人税等合計	8,402	7,873
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△741,148	△10,085
四半期純損失(△)	△741,148	△10,085



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年1月1日 至 平成27年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△741,148	△10,085
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	—	—
四半期包括利益	△741,148	△10,085
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△741,148	△10,085

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	持ち帰り寿し 事業等	寿しFC事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	6,960,250	2,245,136	9,205,387	—	9,205,387
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	6,960,250	2,245,136	9,205,387	—	9,205,387
セグメント利益又は損失(△)	△63,447	△72,851	△136,298	△393,783	△530,081

(注) 1. セグメント損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用393,783千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の本社管理部門の配賦不能営業費用であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	持ち帰り寿し 事業等	寿しFC事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,493,720	1,068,579	4,562,299	—	4,562,299
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,493,720	1,068,579	4,562,299	—	4,562,299
セグメント利益又は損失(△)	△23,732	234,822	211,089	△134,374	76,715

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用134,374千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の本社管理部門の配賦不能営業費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。